

社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」

10月
2022

Topia

第62号



〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-232720
Fax: 0853-232721
<発行所>
E-mail shien@heartpia.or.jp
相談支援事業所
ホームページ
ハートピア出雲 <http://www.heartpia.or.jp>

こんなことやっています ~相談支援専門員のお仕事~

相談支援専門員とは、障がいのある方やお子さんが福祉サービスを利用できるようにサポートしたり、日常生活・社会生活において様々な悩みを抱えているご本人やご家族が安心して生活ができるよう、相談・支援していくことが主な役割です。

いくつか具体的な例を挙げますと、

◎「病気やケガで入院し、退院後は車椅子で生活する方」

退院後も自宅で安心して生活できるよう、ご本人の希望を聞きながら、自宅の環境を整えたり、通所サービス、ヘルパーなどの訪問サービス等を調整します。

◎「特別支援学校を卒業後福祉サービスを利用する方」

卒業前からご本人や学校と何度か話をして関わらせていただき、利用する福祉サービス事業所との調整や、生活全般についての相談などをします。

◎「発達が気になるお子さんを持つ親御さん」

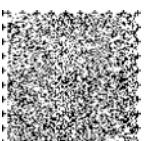
安心して子育てができるよう一緒に考えます。年齢や環境も様々ですので個々のニーズをお聞きしてサポートしていきます。

我々は、ご本人が自分の生きたい場所でその人らしく生活していくことができるよう、一緒に考えながら関わらせていただくサポート役であると思います。

時には、すぐに答えが出ないこと、思うように進まないことやサービスにつながらないこともあります。そういう時は動きが止まってしまいがちになりますが、もう一度ご本人やご家族と話をしたり、周りの人達の理解、協力を得ながら、少しでもよりよい方向に進むように日々の相談支援を丁寧におこなっていきたいと思っています。（文：相談支援事業所ハートピア出雲 柳楽由紀子）

もくじ

- 相談支援専門員のお仕事・・・・・・・・・・・・・・・・1 p
- 言語聴覚士からのミニクイズ・・・・・・・・・・・・2 p～3 p
- 難波寿和さんの本の紹介&表彰のお知らせ・・・・・・・・4 p



言語聴覚士からの「フムフム、なるほど！」～第4回～



言語聴覚士の安立です。

ことば・コミュニケーションについての疑問を解き明かすプログラムの第4回をお送りします。今回は、母音と子音について発音面から考えてみましょう。

日本語のことばは、母音（ア・イ・ウ・エ・オ）と子音+母音（カ行・サ行など）の2種類でできています。50音表では、カキクケコのような縦方向を行、アカサタナハマヤラワのような横方向を列で示してありますね。

Question 1：非円唇・前舌・狭母音とは「オ」のことである

Question 2：カ行（カ・キ・ク・ケ・コ）の子音はすべて同じである

Question 3：サ行（サ・シ・ス・セ・ソ）の子音はすべて同じである

Question 4：ハ行（ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ）の子音はすべて同じである

Q1=x

非円唇・前舌・狭母音は「イ」です。「オ」は円唇・後舌・中母音です。

では、まずは、母音の特徴についてみてみましょう。

母音は、肺からの息が喉や口での閉鎖や狭めをうけずに流れ出る音です。

図1 日本語母音図に示したように、

- 1) 口の開き具合が広い（=舌の高さは高い）あるいは狭い（=舌の高さは低い）、
- 2) 舌の位置が前あるいは後、そして図にはありませんが
- 3) 口唇の形が丸みを帯びている（円唇）あるいは丸みを帯びていない（非円唇）という3つの違いによって音色が変わり、ア・イ・ウ・エ・オの5種類に区別されています。

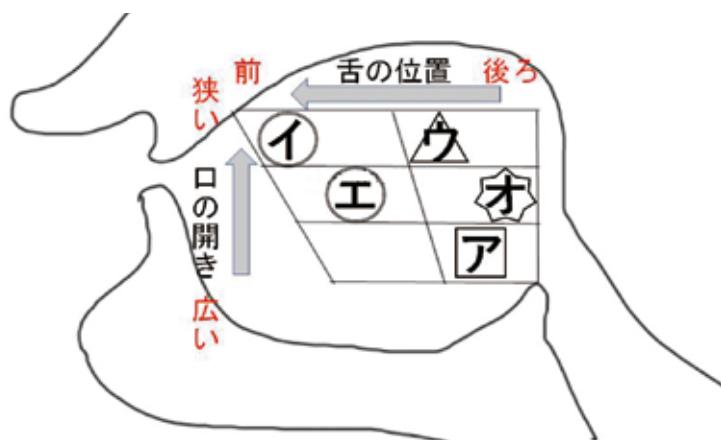
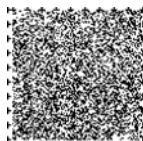


図1 日本語母音図



3ページにつづく

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ

図2 母音および力行・サ行・ハ行

次に子音+母音(力行・サ行・ハ行)について図2母音および力行・サ行・ハ行を使って説明します(50音表とは縦横が逆になっていますので注意してください)。

1段目は母音です。ア・イ・ウ・エ・オ各母音を色分けしています。2段目は力行、3段目はサ行、4段目はハ行です。ア列・イ列・ウ列・エ列・オ列は各列の母音がすべて同じですので、1段目から4段目まで縦方向すべて同じ色です。

Q2 = ○

2段目の力行は、母音の前がすべて同じ色ですので、子音は同じです。

Q3 = ×

3段目のサ行は、シだけがサ・ス・セ・ソと色が違いますので同じではありません。

Q4 = ×

同様に、4段目のハ行はハ・ヘ・ホが同じで、ヒとフは各々違います。このように、ハ行の子音は3種類あります。

つまり、同じ行でも発音の仕方が違う場合があるということです。

また、②の力行は同じ発音ですが、後ろに続く母音によって難しさが異なります。

「カ」の発音は、ことば・コミュニケーションについての疑問を解き明かすプログラムの第2回に出てきましたので、ご参照ください。力行の子音は舌先ではなく、舌の位置は奥後方の付け根を口の天井(口蓋)の奥に近づけて発音します。

では、図1日本語母音図を再度ながめてください。

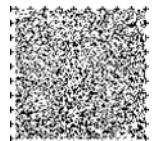
「イ・エ」の舌の位置は前方ですので、「キ・ケ」では、奥後方の子音から前方の母音へと舌を長い距離移動させて、かつ素早く動かさなければなりません。

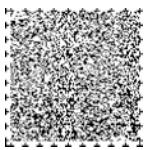
したがって、「キ・ケ」は移動距離の短い「カ・ク・コ」よりタ行になりやすいといえます。



「カメ」「クマ」は上手に発音できるようになっても、なかなか「ケーキ」と言えなくて「チーズ」になってしまることが多いのはそのためです。

(文:ハートピア出雲ステップ児童指導員 安立多恵子)





難波寿和さん 発達障がいについての本を出されました！

ご自身も発達障がいを持ちながら当事者の支援活動をされている難波寿和さんが7月に本を出版されました。その本を読んだ感想をご紹介します。

学生の時に、講義の中でリフレーミングという考え方について勉強をしました。それは、欠点と捉えられがちなものを強みに変換して考えるというもの（頑固→意志が強い、せっかち→行動が早い、など）です。本書を読んでいくうちに、ギフトを見つける過程で、私はこのリフレーミングが近いものがあるのではないかなどと考えました。

また、「ギフト」という言葉の意味は「…に贈り物をする、授ける」という動詞です。私はこの「ギフト」があくまでも能動的であるところに強い意味を感じました。誰かにやってもらったり、指示をされたりするのではなく、自分自身で能動的に強みを見つけていこうとすることが重要なのではないのでしょうか。支援者としても、本人が自ら選択したり、自分でやろうとしたりする力を奪ってしまわないように、強みを見つけていけるようサポートしていくことが支援をするうえで必要だと、改めて思いました。

（文：ワークセンターフロンティー 生活支援員 田村 真沙樹）



●7月に出版された難波寿和さんの著書

◆令和4年度 出雲市社会福祉協議会会長表彰を受賞◆

- ・社会福祉事業協力援助をしている個人ボランティアで功績顕著な方
- ・職員で20年以上勤務し、特に功績顕著な方

日野 猛さん・・・・・・社会福祉法人創文会個人ボランティア

矢田 弘子・・・・・・社会福祉法人創文会職員

坂本 憲治・・・・・・社会福祉法人創文会職員

この度、受賞されたボランティアの日野さんは、ハートピア出雲の立ち上げの際には職員として、退職されてからは現在まで10年以上にわたり書道や絵手紙、そば打ちなどご利用者の活動支援に尽力してくださいました。

また、勤続表彰を受けられた2名は、ハートピア出雲の立ち上げ当初から20年以上勤務されました。開所当時は県内で数少ない障がい児・者デイサービス事業の職員として、試行錯誤を繰り返しながら、多くのご利用児・者、保護者さんに寄り添いご尽力されました。これまでのたくさんの出逢いやさまざまなかつらぎや笑顔の積み重ねをエネルギーに変え、これからも共に進んでいきましょう。

（文：ハートピア出雲事務局 高橋 悅子）

編集 後記

◆数ヶ月まえ車いすを久しぶりに新車にしました。いつもながら業者さんに頼んで私の小さな身体に合わせて頂いたオーダーメイドです。今回は外出中に便利なドリンクホルダー や、オシャレに後輪にスポーツカバーを装着したりと少々こだわりの車いすにしてみました。当事者会の集まりで以前、全国の仲間とお会いしたとき県外の当事者たちが乗っていた車いすがとてもかっこよくて「いいなあ、次回自分も愛車を作るならあんなふうにしたいなあ」と思ったのが今回のこだわりの一台につながりました。【編集長 米山】

